

1 治安情勢

警察による治安対策が一定の成果を挙げているものの、スリ、ひったくり等の軽犯罪は依然として多数発生している。また、リビア等近隣国における法執行機能の不全等を背景として、島嶼部を含むイタリア南部に、多数の移民が短期間で押し寄せ、特別在留許可を得た者を含む多数のアフリカ系移民が都市部に引き続き流入している。

2 日本人被害例

スリ等の被害件数については、前四半期と同程度の発生が認められる。細部の被害状況については、以下のとおり。

(1) スリ 34件（4月～6月：31件）

ア スペイン広場を観光していたところ、肩掛けバッグが開いていることに気付いたため、中を確認すると旅券・財布がなくなっていた。

イ ウフィツィ美術館への入館のため並んでいたところ、気付くとバックの中に入れていた旅券がなくなっていた。

ウ ローマ市内の混み合った地下鉄に乗っていたところ、斜め掛けをしていたバッグが開いていたことから、中を確認すると旅券・クレジットカードがなくなっていた。

エ ピサの斜塔周辺の混雑した場所で、スマートフォンにより写真撮影をしていたところ、気付くと肩掛けバッグの中に入れていた旅券・財布がなくなっていた。

オ ローマ市内の地下鉄を降りた際、見知らぬ女性に改札階行きのエレベーターに案内されたため、これに乗ったところ、背後から数名のグループも同乗し、空間内が混雑した状態となった。不審に感じたため、改札階へ到着した後にカバンの中を確認すると旅券がなくなっていた。

カ ナポリ駅周辺の混み合った路上を歩行していたところ、バッグが開いていたことから、中を確認すると旅券がなくなっていた。

(2) 置き引き 10件（4月～6月：13件）

ア ローマ市内の地下鉄構内で書籍を読んでいたところ、気付くと足元に置いていたカバンを盗まれていた。

イ ナポリ駅付近の飲食店で、見知らぬ人物に声を掛けられたため、これに対応していたところ、気付くとテーブルの上に置いていたバッグを盗まれていた。

(3) ひったくり 3件（4月～6月：2件）

ア ナポリ市内の路上において、歩道を横断しようとしたところ、横からバイクに乗った人物に、斜め掛けをしていたポーチをひったくられた。

イ ナポリ市内の路上において、背後からバイクで接近してきた人物に、肩から提げていたカバンをひったくられた。

3 殺人・強盗等凶悪犯罪例

外国人が被害者となった事件が発生したものの、日本人の被害については認められなかった。事件の概要については、以下のとおり。

(1) 殺人

ア 7月3日

カンパニア州において、31歳ガーナ人男性が、77歳男性を殺害（撲殺）した。加害者については、過去に精神疾患の通院歴があり、事件当時、現場に駆けつけたカラビニエリにより取り押されている。現在のところ、動機を含め、当局が細部を捜査中である。

イ 8月21日

ラツィオ州南東部の町において、3名の遺体が確認された。警察の調べによると、遺体の身元は男性1名及びその子息2名であり、現場の状況から、現在のところ無理心中とみられている。

ウ 9月17日

ローマ市内の川沿いにおいて、モロッコ国籍の34歳男性の遺体が発見された。被害者の頸部には鋭利な刃物による裂傷が認められ、これが致命傷になったものとみられている。後日、カラビニエリの捜査により容疑者が浮上したことから捜査協力を求めたところ、同人は被害者と口論の末、ナイフで刺殺したと供述している。

(2) 強盗

ア 7月1日

ナポリ市内の郵便局において、営業時間中、強盗犯数名が車両により入口を破壊し、同局内に侵入した。その後、犯人らは従業員を脅迫・金銭を強奪し、別に用意したスクーターにより逃走している。現在のところ、警察が犯人の行方を捜査中である。

イ 9月8日

ローマ市内の鉄道駅付近において、18歳男性が、女性を殴打し金品を強奪した。通行人の通報により、カラビニエリが加害者の身柄を確保している。

(3) 強姦

7月24日、ナポリ市内において、英国籍の18歳女性が、2名の男性により強姦被害を受けた。事件当時、女性はパーティーでアルコールを大量に摂取しており、酩酊状態にあった。また、加害者とみられる男性らは、

合意の上で行為に及んだと供述しており、現在のところ、警察が細部を捜査中である。

- 4 テロ・爆弾事件発生状況
特になし。
- 5 誘拐・脅迫事件発生状況
特になし。
- 6 対日感情の変化
特になし。
- 7 日本企業の安全に関する諸問題
特になし。